

	植 物 名	頁		植 物 名	頁		植 物 名	頁	
ア	アカメガシワ	4②		シラキ	6③		ヒノキアスナロ	3⑭	
	ウラシマソウ	5⑦		シロダモ	1④		ヒメヨツバムグラ	5⑳	
	ウラジロガシ	2⑨		スギ	2⑩		ホウ	4㉓	
	エゴノキ	6③		スタジイ	3⑩	マ	マルバマンサク	6㉕	
	オオカメノキ	7③		セイヨウシャクナゲ	5㉑		ミズナラ	7④①	
	オオバクロモジ	6④	タ	ダイオウショウ	2⑫		ミツバウツギ	7④④	
	エゾツリバナ	7④		タガネソウ	7③		ムベ	1②	
	エンレイソウ	7④		タブノキ	4⑪		モミノキ	2⑧	
カ	キヅタ	1④		ツタウルシ	5㉔	ヤ	ヤブツバキ	7④⑥	
	クサギ	4②		ツルシキミ	7④		ヤブニッケイ	2⑪	
	クスノキ	1①	ナ	ナラ	6③		ヤマウルシ	7④②	
	クリ	6③		ヌマスギ	2⑦		ヤマボウシ	7④⑧	
	コウヨウザン	3⑬			5③		ユズリハ	3⑬	
	コシアブラ	3⑮		ヌルデ	4②	ラ	リョウブ	7③	
	サ	シュロ	1⑤	ハ	ハリギリ	5②			
		ショウジョウバカマ	7④		ヒサカキ	3⑪			

《新保八幡宮エリア》

①



① クスノキ(クスノキ科ニッケイ属)

鳥居の両脇に2本並ぶ。暖地性。佐渡には本来自生しない。葉はつやがあり、革質で、先の尖った楕円形。葉をすりつぶすと、ナフタレン成分のにおいがする。大木の下に、子どもの若木も見られる。

②



② ムベ(アケビ科ムベ属)

常緑つる性木本植物。5枚の小葉に分かれる。アケビの仲間では唯一、常緑性。暖地性。山形県、飛島が北限。鳥が種を運んできたと考えられる。

③



③ ゴウアケビ(アケビ科アケビ属)

葉は5枚の小葉に分かれる。小葉は長さ3～6cmの楕円形、縁に波状の不規則な鋸歯がある。暖地性。

④



④ 左:ツタ(ブドウ科ツタ属) 右:キツタ(ウコギ科キツタ属)

キツタは、常緑つる性木本。落葉性のツタ(ブドウ科)に対し、常緑性で冬でも葉が見られるのでフユツタ(冬蔦)ともいう。

⑤



⑤ シュロ(ヤシ科ヤシ属)

常緑高木。排水良好な土地を好み、乾湿、陰陽の土地条件を選ばず、耐火性、耐潮性も併せ持つ強健な樹。街路樹としても葉が落ちず、管理が少なく済むため、手間がかからない。葉は、ハエタタキとして使われた。

⑥



⑥ シロダモ(クスノキ科シロダモ属)

佐渡の方言で、ウラジロ。葉の表面は無毛、裏面は粉白色をしている。毛ではなく、ロウの成分で白い、炙ると緑に変わる。葉をつぶすと、ナフタレン成分のにおいがする。クスノキの仲間の証拠。

⑦



⑧



⑦ヌマスギ(ヒノキ科ヌマスギ属)

北アメリカ原産。湿地に生える。落葉針葉高木。湿地に植えると、幹の周りに呼吸のための呼吸根(気根)が出てくる。

⑧モミノキ(マツ科モミ属)

クリスマスツリーで有名だが、実際に販売されているのは、エゾマツやウラジロモミなどが多い。寺社等に植えられていることが多い。佐渡の本来の自生ではない。参りのお土産として、賽銭代わりに植樹したこともある。葉の先端が二つに分かれ、尖っているのが特徴。

⑨



⑨ウラジログシ(ブナ科コナラ属)

常緑広葉高木。暖地性。粟島が北限だったが、佐渡が準北限になった。人が住みやすい気候条件で育つ。材は堅く、建材や家具材等に用いられる。絶滅危惧種に指定されている。外海府、達者の若い樹の集団は、葉が落ちていた。

⑩



⑩スギ(ヒノキ科スギ属)

新保八幡宮の御神木。植樹ブームでたくさん植えられた。日本海側のスギは「裏スギ」と呼ばれ、枝に柔軟性があるため、雪への抵抗が強い。枝は、下に下がる。太平洋側の「表スギ」は、柔軟性がない。

⑪



⑪ヤブニッケイ(クスノキ科クスノキ属)

クスノキの仲間、ナフタレン成分のにおいがする。佐渡では唯一、ここでだけ確認される。植栽されたもの。暖地性。

⑫



⑫ダイオウショウ(マツ科マツ属)

北アメリカ原産。アメリカ産の松は、松食い虫への抵抗力をもつ。葉が長く、3本あるのが特徴。3本は日本にはなく、ゴヨウマツは葉が5本。根は、水はけの良い場所を好み、空気が必要。コンクリートで固めてはいけない。このような巨木は、日本で唯一かもしれない。

⑬



⑬コウヨウザン(スギ科コウヨウザン属)

本来、漢字の「杉」は広葉杉(コウヨウザン)のことを指したといわれる。部首のさんづくりのモデル。古代から有り、化石としても産出する。中国産。植栽木として持ち込まれた。右は、若芽と球果。球果は、種鱗からなる。

⑭



⑭ヒノキアスナロ(ヒノキ科アスナロ属)

佐渡では、アテビと呼ぶ。別名、ヒバ。青森ヒバ、木曽ヒノキ、秋田スギは日本三大美林とされる。右は、葉と球果の比較。ヒノキアスナロは球果が小さく、葉の裏は、カタカナの「ハ」が二重に重なったように見える。ヒノキチオールは、肺炎球菌の繁殖を抑える効果がある。

⑮



⑮コシアブラ(ウコギ科ウコギ属)

葉は5分裂する。山菜として若芽を食べる。

⑯



⑯スダジイ(ブナ科シイ属)

別名、シイノキ。佐渡の姫崎が北限。

⑰



⑰ヒサカキ(モッコク科ヒサカキ属)

サカキ(榊)は暖地性で自生しないため、佐渡ではヒサカキを使う。葉に鋸歯があり、小ぶりなので、飾るのには、収まりがいい。

⑱



⑱ユズリハ(ユズリハ科ユズリハ属)

暖地性。常緑高木。大佐渡に多い。シャクナゲと並んでいっぱいある。幹がしっかり区別できる点で、エゾユズリハと区別できる。めでたい植物とされ、正月の松飾りの根じめに使うこともある。

①⑨



①⑨タブノキ(クスノキ科タブノキ属)

常緑広葉高木。上は、タブノキの新芽。暖地性。魚は黒いところに寄ってくるため、海岸の高木は「魚つき林」となる。佐渡高校など、天然記念物として指定される。大木は、丸木舟にされた。

②⑩



ヤマウルシ

ヌルデ



②⑩ヌルデ

(ウルシ科ヌルデ属)

ウルシの仲間だが、かぶれにくい。ヌルデは、葉軸の両脇に翼がある。

②⑪



②⑪クサギ(シソ科クサギ属)

漢字では、臭木。葉をもむとゴマのような香りがする。若芽には、毛がある。花はエキゾチックで、果実は美しい。湯がけば食べられるらしい。暖地性。

②⑫



②⑫アカメガシワ(トウダイグサ科アカメガシワ属)

暖地性。新芽は、赤い。食べられるらしい。葉が広葉なので、お供え物をのせるのに使われた。

②⑬



②⑬ホウノキ(モクレン科モクレン属)

葉が広葉なので、皿に使う。また、朴葉味噌として食べる。防臭殺菌効果がある。一輪としては、最大の花を咲かせる。香りが強い。幹からは、大きな材が取れる。柔らかく均一な材のため、まな板や下駄、版画板などに使われる。

②⑭



②⑭ドクダミ(ドクダミ科ドクダミ属)

代表的な薬草。飲んでみると、蚊に刺されない。天ぷらにすれば、おいしく食べられる。

②⑤



②⑤ツタウルシ(ウルシ科ウルシ属)

ウルシオールが最も多い。葉は3分裂する。枝は赤みが有り、葉は卵円形。

②⑥



②⑥ハリギリ(ウコギ科ハリギリ属)

タラノキ同様、トゲが危険。新芽は、食用にされる。

②⑦



②⑦ウラシマソウ(サトイモ科テンナンショウ属)

果実が低い位置にできる。マムシグサの仲間。

②⑧



②⑧ヒメヨツバムグラ(アカネ科ヤエムグラ属)

15cm程度で、葉が4個ずつ輪生する。絶滅危惧種。

②⑨



②⑨セイヨウシャクナゲ(ツツジ科ツツジ属)

神事に使われた。かつて男子が7歳になると、金北山へお参りに行き、行った証に枝を持ち帰った。

③⑩



③⑩ヌマスギ(ヒノキ科ヌマスギ属)

ヌマスギは和名。学名はセコイヤ。北アメリカ原産。右:ヌマスギの葉は非対称で互生。左:メタセコイヤは左右対称で対生。

《ゆずろ公園エリア》



③①

③① クリ(ブナ科クリ属)

花からはいやな臭いがする。雌雄異花。雌花がイガになる。



③②



③② ナラ(ブナ科コナラ属)

ナラ枯れは少なくなってきた。若い樹は、縦すじの皮目が出る。幹が黒いのは、苔や地衣類が生えているため。

③③



③③ シラキ (トウダイグサ科シラキ属)

紅葉が早く、美しい。種子から油が取れ、燈明油として使われた。ススが少なく、低温でも固まらない。

③④



③④ オオバクロモジ(クスノキ科クロモジ属)

葉をすりつぶすとナフタレン成分の香りがする。枝を削って楊枝にし、和菓子などで使う。

③⑤



③⑤ マルバマンサク(マンサク科マンサク属)

早春に、黄色い毛糸を切ったような花が咲く。

③⑥



③⑥ エゴノキ(エゴノキ科エゴノキ属)

花は下向きに咲く。ヤマガラが実を食べる。ヤマガラは、貯食する習性がある。



③⑦ オオカメノキ
(レンプクソウ科ガマズミ属)
2枚ずつ丸い葉がつく。鋸歯の中に
鋸歯がある。



③⑧ リョウブ(リョウブ科リョウブ属)
幹はサルスベリに似ている。白い花
が咲く。実は、米の増量剤として使わ
れた。



③⑨ タガネソウ
(カヤツリグサ科スゲ属)
カヤツリグサ科のなかでは、葉が広
い。



④⑩ ツルシキミ
(ミカン科ミヤマシキミ属)
雌雄異株。雌株には赤い実がで
き、長持ちする。



④⑪ ミズナラ(ブナ科コナラ属)
葉の枝が短く、鋸歯がはっきりして
いる。



④⑫ ヤマウルシの若い実



④⑬ ショウジョウバカマの不定芽



④⑭ ミツバウツギ
(ミツバウツギ科ミツバウツギ属)
佐渡に多い。実の形が袴に似る。



④⑮ エゾツリバナ
(ニシキギ科ニシキギ属)
日本海側の要素。秋、実がはじけ
て、朱色の種子が見える。



④⑯ ヤブツバキ
(ツバキ科ツバキ属)
暖地性。基準の植物。



④⑰ エンレイソウ
(ユリ科エンレイソウ属)
実が食べられる。花がつくまで、8
～10年かかる。



④⑱ ヤマボウシ(ミズキ科ミズキ属)
佐渡産。ハナミズキの仲間。ハナミ
ズキは、アメリカとの条約の記念に送
られた。9月頃、サクランボのような
実を付ける。